

登録コード	MA760900	開講年度	2026			
授業科目名	実践理学療法学演習				担当教員	百瀬 公人 他
英文授業名	Practice in Practical Physical Therapy				副担当	横川 吉晴・青木 薫・北川 孝
単位数	4	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限	対象専攻 / 学年
講義室	保健学科1 2 1 講義室		授業形態	演習	授業科目区分	選択科目
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素					
	MS 2 6カリ(保健学), MS 2 5カリ(保健学), MS 2 4カリ(保健学), MS 2 3カリ(保健学)					
	【保健学】保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。				学際的な観点で問題を解決するための研究を実施できる。	
	【保健学】国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。				現在の医療の問題点を発見し、研究に落とし込み実施することができる。	
(2)授業の概要	疾患、障害、老化に対する既存の理学療法を検証し、解剖学・生理学、病理学、運動学、画像診断学などの科学的根拠に基づいたより有効な手技、新しい治療方法などを探究する。 本授業は担当教員の理学療法における臨床の実務経験及び研究者としての実務経験を活かして講義を行います。					
(3)達成目標（一般学習目標G I O）	1．神経系・筋骨格系の生理作用を、分子生物学的手法を用いて探究する。 2．疫学の視点から、高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の研究方法論について理解する。 3．3次元動作解析装置、筋電図、最大酸素摂取量計測などによる運動力学的・運動生理学的な計測、臨床で簡便に用いられる評価スケールや評価器具を用いての検証、既存のリハビリテーション機器の有効性評価・改良などについて深く追求する。 4．神経系・筋骨格系の正常運動時の動態を、超音波画像等を用いて評価する。 以上の学習を通して、情報収集能力・分析能力・情報発信能力を習得する。					
(4)達成目標（個別行動目標S B O s）	1．骨の生理作用を分子レベルから理解する。 2．高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の基本的な研究方法論を説明できる。 3．正常運動時の生体組織の動態を、超音波画像等を用いて理解する。 4．正常運動時の重心の加速度を理解する。 5．正常運動時の関節角度、角速度、角加速度を理解する。 6．運動機能障害と正常運動時の違いを理解する。 7．疾病や病態別の臨床評価尺度を選択する能力を身につける。 8．関連論文の評価や意義を理解することが出来る。					
(5)授業計画	第1回（10月 3日）重心の運動学、四肢の運動と関節角度、角加速度1（百瀬） 第2回（10月10日）重心の運動学、四肢の運動と関節角度、角加速度2（百瀬） 第3回（10月17日）重心の運動学、四肢の運動と関節角度、角加速度3（百瀬） 第4回（10月24日）分子レベルから見た骨・神経の生理作用3（青木） 第5回（11月 7日）分子レベルから見た骨・神経の生理作用3（青木） 第6回（11月14日）分子レベルから見た骨・神経の生理作用3（青木） 第7回（11月21日）合同討論1、前半まとめ 第8回（11月28日）疫学的手法を基盤とする障害予防の研究手法1（横川） 第9回（12月 5日）疫学的手法を基盤とする障害予防の研究手法2（横川） 第10回（12月12日）疫学的手法を基盤とする障害予防の研究手法3（横川） 第11回（12月19日）機器を利用した生体組織の動態評価1（北川） 第12回（12月26日）機器を利用した生体組織の動態評価2（北川） 第13回（ 1月 9日）機器を利用した生体組織の動態評価3（北川） 第14回（ 1月16日）合同討論2、後半まとめ 第15回（ 1月23日）合同討論3、全体					
(6)授業の進め方	講義、演習、課題発表、討論などを行う。 新型コロナウイルス感染状況によってはWEBにて実施します。詳細については、eALPSにおける各授業のアナウンスを参照してください。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	授業計画や授業で配布する資料等で、予習しておくべき内容を示してあるので、教科書や参考書で事前学習する。 また、授業中に、これまでの授業で学習した内容について質問をするので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように事後学習する。					
(8)成績評価の方法	合同討論1、2、3における討論内容及び各授業で行われる口頭試問を総合して判定する。 討論50点、口頭試問50点 総得点の60点以上を合格とする					
(9)成績評価の基準	講義中の試問、合同討議の討論を総合的に評価する。 諮問 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」, 応用問題が解ければ「やや上にあ					

(9)成績評価の基準	る(良)」, やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある(優)」, 例題よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している(秀)」 討論 (i) 問題の理解が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。
(10)学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	受講希望者は, あらかじめ担当教員(百瀬)にメールで連絡すること。 また, 授業の各教員の日程について, 随時変更することがあるので, 下記のメールで情報を得ること。 質 問相談などについてはメールで日程を調整すること。 百瀬: knomose@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎4階百瀬研究室 横川: fhakuba@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎4階横川研究室 青木: kin29men@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎1階青木研究室 北川: tkitagawa@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎4階北川研究室
【テキスト, 教材, 参考書】	講義において紹介する